

## 2023年度事業報告



はじめ、

特定非営利活動法人  
フードバンクあったか元気便

コロナ感染禍の長期化と食品などの諸物価の値上がりは「就学援助世帯」のくらしと子育てを「直撃」するとともに、私たちの取り組みをも「直撃」する状況となりました。

一方、こうしたなかで「食卓応援」はもとより、「利用者アンケート」で寄せられた声に応じて、子どもたちの「学習と体験の場づくり」、「おかあさんのためのレスパイト応援」などの取り組みが島根大学研究チームやNPOスペース、地域つながりセンター、おたがいさまなどとの「協働」の取り組みとして実現・拡充することができました。

○ちいさな「協働」を積み重ね、「食卓応援」から「くらしと子育て応援」まで

1：23年度の食品提供の取り組みは、あらたに湖東中・大庭小・竹矢小が利用校となり松江市内の小・中学校20校に広がり、のべ2,075世帯、7,559人、食品提供総量は32トンとなり前年比で120%となりました。

2：「利用者アンケート」に寄せられた、ひとり親の声に応じて「中学3年生の進路・進学『応援塾』」がNPOスペース、島根大学研究チームとの「協働」で開講し、実人数27人、のべ106人が受講しました。また、のべ77人の学生講師ボランティアなど、のべ113人が受講を支えました。

3：サクラ高等学院とあらたに「夏休み野外企画」を取り組みました。引き続き「クリスマス会」をはじめ、小学生を対象とした長期休校期間の「お昼ごはん+学習応援」は、のべ8回開催し地区民児協・地区社協・食生活改善推進協支部、島大生、県大生などのボランティアと取り組みました。

4：「おかあさんのためのレスパイト応援」は、のべ11件、のべ42.5時間となり応援内容も子どもの見守りや草刈り、「病児応援」、大掃除など多様なニーズに応える内容となりました。

5：「食育体験」（主催：連合島根 田植え・稲刈り）をはじめ、SMSを活用した「おやこ de サーカス」や県立大のキッズコンサートやチャリティーサンタさんなど、主催者と連携した参加よびかけや「ご招待」は、利用者からも大きな反響がありました。他団体主催の企画での協力・連携で子どもたちの「体験」や「学習」の場づくりが広がりました。

## ○「支える輪づくり」ボランティア等のべ1,390人参加

- 1：活動内容の広がりもあり、年間ボランティア等のべ参加者は1,390人となり、前年度比128%となり参加した世代、階層ともに広がりました。
- 2：フードドライブ協力は**82**団体・企業となりました。今後の取り組みを支えるうえで引き続き拡充することが大きな課題です

## ○安定した自主財源の確保をめざして

- 1：しまね社会貢献基金のクラウドファンディングと共同募金テーマ募金は、目標達成しました。引き続き「いつでも・だれでも・どこからでも」を基本に自主財源の拡充を図ります。
- 2：あらたに連合島根の単位組織に募金箱設置がすすみ、募金箱での寄付金総額は47万円超となり新たに自主財源確保の柱の一つができました。
- 3：「あったか元気便応援自販機」は、19台の設置にとどまりました。引き続き30台をめざして設置をすすめます。

## ○ 知らせて、語って、つながって

- 1：「あったか元気便だより」は、4回発行しました。定期配布数は約3千部となりました。フェースブックは80回情報発信を行いフォロワーも徐々に広がっています。賛同企業の協力でエコクリアファイル2千枚を作成し広報に活用しました。
- 2：新聞報道8回やテレビ報道5回などマスコミでも取り上げられました。来年度は、あったか元気便の取り組みが松江市の小学校での教材で取り上げられるなど「見える化」が広がります。
- 3：「DV支援から見えてくること」、「利用者アンケート調査結果」などの、学習会を開催しました。
- 4：町内会や宗教団体、慈善団体、高校生などを対象に講演会や報告会など26回で872人にあったか元気便の取り組みを知らせる機会ができました。
- 5：フードバンクとっとり、フードバンクよなご、コミュニティフリッジなど山陰地方のフードバンク団体との交流と情報交換をすすめました。

